

キャリア教育の充実をめざした NIE の実践

国富町立本庄中学校

教諭 山本 健太

1 はじめに

本校は、令和3年度よりNIE実践指定校（令和4年度は全国大会授業実践校）となつており、3年目である本年度は、「キャリア教育の充実」をテーマにして取り組んだ。また国富町は、令和4年度より宮崎日日新聞社と提携し、「宮日新聞の日」をもうけ、町内の全小中学校でNIE教育の推進に努めている。今回は、その「宮日新聞の日」における様々な取組や、日常的な取組を中心に報告する。

2 本年度の取組

（1）「宮日新聞の日」の取組

各学期に1回（全3回）、全生徒に宮日新聞を配付し、学年ごとにNIEの実践を行つた。1、2回目は各学年の裁量で実施した。3回目は町内全小中学校で「新聞スクラップコンクール」を実施し、町から優秀作品を表彰していただいた。学年ごとに実態に即した工夫が見られ、読解力や表現力の向上のみならず、将来の生き方や進路学習、キャリア教育にもつながった活動となった。活動内容は以下の通りである。

① 第1回「宮日新聞の日」の活動（7月に実施）

1年	朝自習の時間に、くろしおを視写した。丁寧に写した後に、内容や視写をしての感想を書かせた。視写することで、記事の内容の理解が高またり、新しい用語を確認したりしていた。また、今後の作文作りに生かしたいと考える生徒もいた。
2年	宮日新聞記者による出前授業を行つた。新聞の構成やできあがるまでの流れを学んだ。新聞を購読している家庭が少なく、普段から新聞にふれる機会のある生徒が少ないが、これを機に新聞を読みたいと興味をもつ生徒が多くいた。
3年	技術の1単位時間を使って、「はさみを使わない新聞スクラップ」を行つた。タブレットPCで紹介したい新聞の写真を撮り、発表原稿に貼り付けて、データで提出させ、記事の紹介を行つた。高校総体の記事を活用している生徒が多く、進路学習にもつながつた。

② 第2回「宮日新聞の日」の活動（11月に実施）

1年	国語の1単位時間を使って「記録をためる」という言語活動を行つた。気になる記事をひとつ選び、見出しと記事の要約をワークシートに書かせた。そこから、2列トーカーで話し手が選んだ記事紹介とその記事に関する考えを述べた後に、聞き手がその記事に対する感想を伝え合うという対話を行つた。その後、対話を行った級友の考えを踏まえた上で、記事に関する自分の考えを書かせた。
2年	新聞の記事の中から、自分の興味のある記事を探し、それを文章にまとめ、帰りの会での1分間スピーチを実施した。分かりやすく伝え、自分の考えを述べることができつつある。今後に生かしていきたい。
3年	10月20日の学級活動の1時間を使って、10月18日付けの新聞記事の中から、一番気になった記事を選ばせ、その要約をワークシートに書かせた。それから、記事に書かれていらない情報を、タブレットを使って調べさせ、最後にその記事についての感想と意見を書かせた。

③ 第3回「宮日新聞の日」の活動（「新聞スクラップコンクール」の実施）

国富町の教育委員会より、「チャレンジの手順」や「新聞スクラップコンクール応募用紙」を提供していただき、コンクールを実施した。生徒には、コンクールの実施を12月中に連絡しておき、冬休み中に読んだ新聞や1月9日（火）に学校で配付される宮日新聞を読み、作品を作成すること伝達した。

チャレンジの手順

◆ 次の1から3の順で取り組んでみましょう。わからないことがあつたら、先生に聞かせましょう。

- 家庭にある宮日新聞や、1月9日に学校で配られる宮日新聞を読んで、あなたが気になった記事を1つ選びましょう。
- 次の(1)から(4)の順で、新聞スクラップを作りましょう。
- (1) 1月9日より後に配られる新聞スクラップコンクール応募用紙にあなたが通っている学校、学年、あなたの名前を書きましょう。
- (2) 新聞記事を切り抜き、のりなどで応募用紙にはりつけましょう。新聞記事はコピーしたものでもだいじょうぶです。
- (3) 使う記事がのった新聞の発行日と面(新聞のページ)を書きましょう。家庭に宮日新聞がある場合には、1月9日(火)付け以外の新聞でもだいじょうぶです。
- (4) 応募用紙の真ん中より下にある「あなたの感想や意見」に、
 - 感じたことや考えたこと
 - なぜ、そのように感じたり考えたりしたのか
 - どのようにすればよいと思うか、どのようにしたいか
 など、あなたが新聞記事を読んだ感想などを決められた行数の中で書きましょう。

【アドバイス】ノートなどに下書きをすると、だいたいの文字数が分かるので、決められた行数にきちんと入り、きれいな新聞スクラップになります。

3 新聞スクラップが完成したら、クラス担任の先生に2月2日(金)までに出しましょう。

応募された作品の中で特に素晴らしいものには、賞状と記念品が送られます。また、入賞者は宮崎日新聞でも紹介されます。
皆さんの作品を待っています!

第3回 国富町「宮日新聞の日」新聞スクラップコンクール応募用紙

本庄 中学校 3 年 氏名 優秀賞受賞者

茶の間

一人旅には良き出会い 山本 和子

コロナ自粛が解禁され、多くの会員が名古屋に行き、帰宅に際して、手紙を添付した。見知らぬ土地を渡るときに、誰かの手紙をもらうことで交流を楽しむ。人を旅を終えさせない、旅の相棒となり、少しうまかった。

試験最後、帰つてきました。列車の中で確認したばかりの駅裏がありません。バッグ、財布をひつり返してあります。吉田男のループサドルをかかづきました。吉田男の3人娘を、金袋を奪うといふ事件が報道されました。アラビア語と日本語で出てきましたが、吉田の娘が切なく泣いてはいる思いが、車窓の人の囁きをうかがって、その他の人が出でられてこなかった。それが3千円で外れ機械にねじ込まれました。それを自分でなければいけないなどと。

山崎町へ着きました。勿論、金子さんや角田さんは優しく思つたのですが、他人との自分に関する関係のない人に対するそれはあてはまる人が多いよう思つてきました。ですがこの言葉では困つている山本さんにうそい声をかけ提示するだけではなく、自分自身も山本さんを助けていました。自分行動し助ける、というのは優しさか思いやりのへが無くて出来ないと思います。だから、それはこの言葉を説いて驚いたのです。

私も困つている人がいたら、声をかけるよ。けではなく、自分で助けていたいと思いました。

(2) 日常的な取組

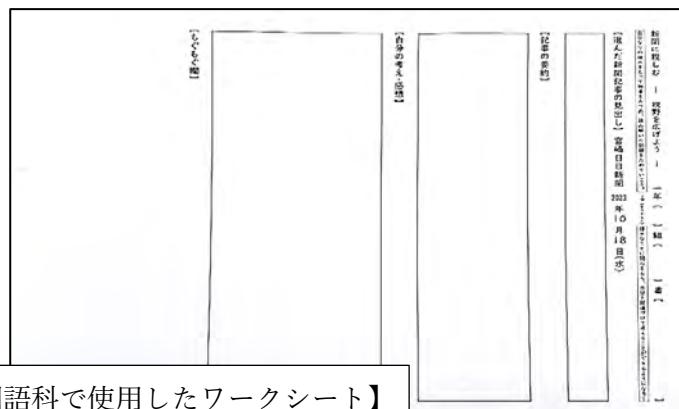
① いつでも手に取って新聞を読める環境の整備

毎日4部ずつ届く新聞を各学年の廊下に新聞コーナーを設置し、生徒が気軽に新聞を読むことができるよう工夫した。また、図書室にも新聞コーナーを設けたり、朝の読書の時間20分間（1・2年生のみ）には、本だけではなく、新聞を読むことを推奨したりすることで、読解力の向上を図った。

② 各教科における授業での実践

国語科では、「自分の視野や視点を広げたり、深めたりすること」を目的に、「新聞に親しむ活動」の授業を実践した。新聞から、自分の考えるおすすめの記事を記録し、考えや意見の交流（対話型の学習）を行った。

【写真は、国語科で使用したワークシート】



技術科では、「情報の伝え方を身につけること」を目的に、「新聞記事をタブレットPCで撮影し、紹介する活動」の授業を実践した。発表のスキルアップのみならず、「自分のこれから生き方」に視点をおいて、対話型の学習を行った。

【写真は、宮日新聞に取り上げていただいた授業の内容】



社会科では、「思考力、判断力を育成すること」を目的に、必要に応じて「授業で取り扱う資料に新聞記事を活用すること」を実践した。特に、3年時に学習する公民科の授業において、導入場面での活用が効果的であった。写真は3年生2月の定期テストで出題した問題の生徒の回答の一部である。

問題【3年間の社会科の授業を通して、あなたに身に付いた力は何ですか？】

<p>※5点です。 身についた力 ニュースや新聞と理解する力。 理由 いままで私は意味のかからなかったに言葉や社会で見るやうにニュースを見て理解する力もつきました。 その学び意欲を大切に! この学び意欲を大切に!</p>	<p>※5点です。 身についた力 裁判をする時の種類をしきみ、内閣のしくみなどをです。 理由 ニュースや新聞を見てみて、ならった單語などが出てきて、意味が分かり今まで分からなかつた状態がよく分かりやすくなつたからです。 これが力をつけよう!</p>
--	---

③ 管理職（校長・教頭）からの職員への紹介

本校の生徒が掲載された新聞記事や、職員に読んでもらいたい新聞記事等を、管理職より職員会議等で紹介していただいた。



3 成果と課題

(1) 成果

- 全職員で NIE の活動に取り組んだことで、読解力や表現力の育成につながることや生徒のキャリア教育に有用であることなど、新聞を活用することのメリットを再確認することができた。
- 「宮日新聞の日」の活動を通して、定期的に新聞記事を読み取る活動を実践してきたことで、社会の出来事に興味や関心をもったり、新たな言葉を理解したりすることができた。
- 各教科の目的を達成するために、新聞を活用した授業を実践することで、効率よく内容を理解することができた。また、「自分の生き方」につなげることに視点におき、対話型の学習を実践したことでの、キャリア教育の充実につながっただけでなく、表現力や語彙力の向上にもなった。
- 管理職より職員会議等で新聞記事を紹介していただいたことで、職員は活字の良さに気づいたり、生徒に対して話をする材料になったりしていた。

(2) 課題

- 各教科の授業における NIE の活動については、教師によって個人差があるため、教師に対して、事前に研修や演習を実施する必要がある。
- 学校における NIE の活動に取り組む時間の確保や、生徒の発達段階や実態に応じた活動になるようにする工夫など、教師側の準備や確認、時間の確保が必要である。
- 学校の教育活動の中で、持続可能な NIE の活動にしていくためには、無理なく活動していくこと大切である。